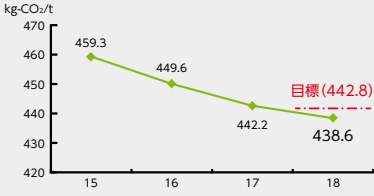
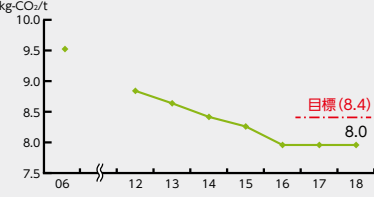
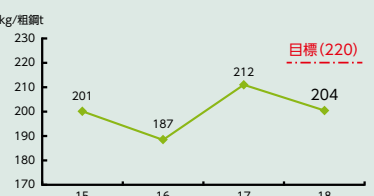


アイチ環境取組プラン2020

| テーマ | 取り組み項目 | 目標 | 主な取り組み内容 | 実績内容 | 評価 | | |
|-------|-----------|----------------------------------|--------------------------------------|--|---|---|---|
| 3大テーマ | 低炭素社会構築 | ①エコ製品・技術開発の推進 | - | ・環境負荷低減製品開発 | ・高強度板ばね用鋼の評価試験実施中 ・次世代高圧水素用スレス鋼の評価準備中 | ○ | |
| | | ②エネルギー改革によるCO ₂ 排出量低減 | 日本鉄鋼連盟 低炭素社会 実行計画 (フェーズI)対応 | ・各工場での削減計画立案と計画的実行 ・生産省エネ活動の推進 EMS*1最高責任者の合同パトロールによるエネルギー効率改善の現地現物点検 | ・低炭素社会実行計画(フェーズI)対応済  | ○ | |
| | | ③生産活動における省エネ活動の徹底 | - | - | - | - | - |
| | | ④物流活動における輸送効率の追求 | 輸送量当り 排出量 2006年比 12%削減 | ・動線短縮 ・モーダルシフト(陸上→海上輸送化) ・積載率向上(刈谷・鍛造工場) |  | ○ | |
| | 資源循環型社会構築 | ⑤生産における副産物の低減とさらなる資源の有効利用 | 粗鋼量当り 排出量 ≤220kg/t*1 | ・電気炉ダストの再利用 ・瓦礫社内リサイクル ・ステンレスダスト一部社外売却 ・廃酸処理済汚泥の社外リサイクル |  | ○ | |
| | | ⑥資源循環型企業に資する事業推進 | - | ・ASショット*2号機稼働 | - | - | |
| | | ⑦物流活動における梱包資材の低減と有効利用 | - | ・新規対象有無フォロー | ・対象無し | ○ | |
| | | ⑧生産活動における水使用量の低減 | - | ・水使用量管理継続 | ・鍛造工場・岐阜工場使用量把握 | ○ | |
| | 自然共生 | ⑨自然・生物多様性保全活動の推進 | - | ・「オールドヨタグリーンウェーブプロジェクト」活動などへの参画 | ・各自然共生団体との連携網拡大 ・生物多様性「E」緑地整備開始 (知多半島生態系ネットワーク対応) | ○ | |
| | 環境マネジメント | ⑩異常・苦情ゼロ活動の推進 | 異常・苦情 0件/年 | ・環境法規制値の80%以下管理の徹底 ・未然防止活動の推進 | ・環境ヒヤリの運用継続実施 | ○ | |
| | | ⑪連結環境マネジメントの強化 | - | ・研鑽会による現地現物確認 ・安全衛生環境部長による国内子会社環境監査 ・化学物質管理体制強化 | ・国内関連会社との相互研鑽会継続実施 ・環境監査継続実施 ・化学物質管理規程制定 | ○ | |
| | | ⑫各国各地域の都市大気環境改善に資する排ガス低減 | - | ・低排出ガス車導入実績フォロー | ・フォロー継続実施 | ○ | |
| | | ⑬ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進 | - | ・製品化学物質情報の入手と、グリーン調達ガイドラインの遵守徹底 | ・委託加工先からの製品化学物質含有情報入手 | ○ | |
| | | ⑭グローバル社員教育・啓発活動の一層の強化 | - | ・環境危険予知トレーニングツール試用 | ・環境危険予知トレーニングツール展開(一部) | ○ | |
| | | ⑮環境情報の積極的開示とコミュニケーションの充実 | - | ・レポートの発行継続とさらなる内容充実 ・環境コミュニケーション活動の充実 | ・株主総会で工場見学・環境取り組み説明 ・メッセナゴヤ2018で環境貢献PR ・地区懇談会継続:本社地区・刈谷地区 | ○ | |

*1 Environment Management System

*2 業の特性を考慮した数値に見直し

*2 製鋼の過程で発生した副産物をリサイクルした研削材